

難民とともに日本社会の未来を築く WELgeeファミリーの一員になりませんか？

マンスリーサポーターを募集しています。

私たちの活動の特徴は、「支援」ではなく
難民の人生再建のための「中長期的な伴走」を行なっていることです。
「中長期的な伴走」とは、個々の難民の方が日本社会と繋がるための取り組みである
と同時に、日本社会が彼らと関係を築いていくための活動でもあります。

WELgee だけでなく、こういった価値観を体現する人が増えていくことで、社会は
異なる背景を持つ様々な人たちがより生きやすい場になるはずですよ。
生まれた国や人種、宗教などの境遇にかかわらず、誰もが一人の担い手として、未来
を築くことができる社会を、私たちとともに実現しませんか？

Join us !!
WELgeeファミリーの
ご登録はこちらから



本報告書の内容に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

特定非営利活動法人 WELgee (ウェルジー) 英語表記: Nonprofit Corporation WELgee

所在地	〒150-6027 東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー27階 デジサーチアンドアドバイザーズ内「COEBI」
メール	info@welgee.jp
SNS	Facebook @welgee X @WELgee_Japan Instagram NPO 法人 WELgee @welgee_japan
代表理事	渡部 カンコロongo 清花
理事	安齋 耀太、山本 菜奈、渡辺 早希
監事	東樹 敏明、井上 智映子
職員	渡部 カンコロongo 清花、山本 菜奈、林 将平、渡辺 早希、加藤 冬華、成田 茉央 坂下 裕基、武居 裕介、金城 遥、圓山 佐登子、寺阪 ゆう子
顧問行政書士	長岡 由剛
リーガルアドバイザー	藤井 直介、荒谷 淑恵
デザイン	平船 瑞生

本書では、人種・宗教・国籍・特定の社会的集団の成員資格・政治的意見を理由に迫害されるという十分に理由のある恐怖のために国籍国の外に
おり、かつ、その国の保護を受けられないか、そのような恐怖のためにそれを望まない人のことを「難民」と呼び、WELgeeとともに活動をする難民
の方々のことを「志を持つ、多国籍な仲間」という意味を込めて「インターナショナルズ」と呼んでいます。
難民の方のプライバシー保護のために、一部画像を編集しています。



発行日：2023年9月19日

Co-Creative Adventure

WELgee Annual Report 2022-2023



私たちは、日本にやって来た難民たちと
誰もが活躍できる未来を創っています。

WELgee's goal is to make a society where refugee are
also welcomed. WELgee is the combination of
"welcome" and "refugee".

WELgeeの活動を応援してくださっているみなさんへ

活動7年目の報告書、まず、嬉しいご報告から。
新しい仲間が増えました！新しくフルタイム職員が2名、キャリアコーディネーターが3名、そして、大事な役割を副業として担いはじめてくださったメンバーも増え、なんと、現在14名が有給スタッフとして関わっています。
そして、プロボノの皆さんの存在は今年度も大きかったです。メンターシッププログラムでは、14名がインターナショナルズたちの、日本でのキャリアの一步目に伴走してくださいました。人員体制の強化は、組織基盤の根幹でもあり、こうして同じ目標に向けて参画してくれるメンバーが増えたことは1つの成長です。これも応援してくださる皆さまのおかげです。WELgeeに大切なお金を託してくださった方々に、改めて、心からの感謝を申し上げます。
移動することでしか命を繋ぐことができない人たちにとっては特に、コロナ禍は厳しい状況でした。再び国境が開き、難民の方々の新規の入国も始まっています。遠い地・日本で人生を再建するまでの道のりは簡単ではありませんが、地球上のどこかに再び足場ができることは大きな一歩です。
コミュニティとしての機能を持ちつつ、プロフェッショナルなキャリア伴走プログラムを構築する。
インターナショナルズの人生に伴走しながら、企業のニーズにも丁寧に向き合う。保護されるべきとされる存在と共に、価値創造をする。社会的なインパクト創出を目指しながら、経済的な持続可能性を追及する。
両立し得ないと思うことを、どうやって両立させてゆくのか。
インターナショナルズたちに背中を押されつつ様々な挑戦をした7年目のWELgeeレポートを、ぜひお楽しみください！



WELgee代表理事
渡部カンコロンゴ 清花

目次

WELgeeとは？	2	協働事例の紹介	13
2022年度のハイライト	3	Team WELgee	15
事業紹介	5	協賛・ご寄付	17
インターナショナルズストーリー	9	財務報告	19
職員が振り返る2022年	11	WELgeeの「今まで」と「これから」	21

■ 難民の定義

難民とは「人種・宗教・国籍・特定の社会的集団の成員資格・政治的意見を理由に迫害されるといふ十分に理由のある恐怖のために国籍国の外にあり、かつ、その国の保護を受けられないか、そのような恐怖のためにそれを望まない者」（出典：UNHCR『難民の地位に関する条約』『難民の地位に関する議定書』）を指します。近年、UNHCRのガイドラインなどによって国際慣習では、紛争・ジェンダー・気候変動での強制移住をせざるを得なくなった人々についても難民として保護する流れが主流になっています。

■ WELgeeの「難民」の考え方

難民が生じる背景や社会情勢が多様化・複雑化する中で、従来の難民の定義にとどまらない多くの人々が、祖国を追われる状態に置かれています。WELgeeは、命の危険があって現在祖国に戻れない状態にある人を活動の対象としており、認定難民・難民認定申請者・後発的難民（帰国困難な状態にある元留学生等）・避難民なども含んでいます。

■ WELgee活動のスタンス

WELgeeは「難民」を保護対象としてのみならず、一人ひとりが志や経験をもった個人として捉えています。政府による難民認定だけをゴールにするのではなく、難民の人生の再建の選択肢を増やす取り組みを行っています。またWELgeeとともに活動をする難民の方々のことを「志を持つ、多国籍な仲間」という意味を込めて「インターナショナルズ」と呼んでいます。
難民の方のプライバシー保護のために、一部画像を編集しています。

■ 表記について

【難民】命の危険があって現在祖国に戻れない状態にある人、総称。認定難民・難民認定申請者・後発的難民（帰国困難な状態にある元留学生等）・避難民なども含んでいます。

【インターナショナルズ】WELgeeとともに活動をする難民の方々のことです。

【避難民】特定の国から避難をしてきた人々のこと。WELgeeでは、特定の国や地域から逃れてきた人々を指す場合には、「〇〇(国名・地域)避難民」という言葉を使用します。特に、アフガニスタン・ウクライナ出身の難民については「アフガニスタン避難民」「ウクライナ避難民」とします。

【団体名】文章中の団体の表記については、法人表記を原則略称にて掲載いたします。

■ 就労伴走事業の表記に関して

就労伴走事業の人材コーディネーションサービスは2023年9月13日より、これまで使ってきた「JobCopass」という名称から、「WELgee Talents」へとリブランディングを実施しました。本活動報告書は2022年度の活動についてのものであるため、当時使用していた「JobCopass」の表記で表しております。また本リブランディングに伴いカウント方法を見直したため、2023年9月以降にWEB等で公開中の数字とは異なります。

■ WELgeeとは？

Vision

自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会

Mission

志を発掘し繋がりを広げ、未来をデザインできる仕掛けをつくる

Approach

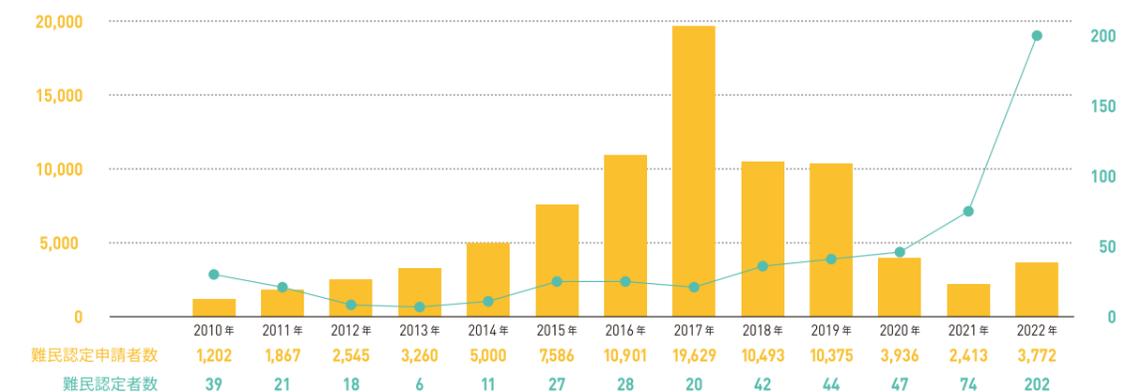
WELgeeは紛争・迫害などから逃れ、希望をもって日本にやってきた難民たちが、経験や専門性を活かして希望を持って日本で人生を再建するため、「就労・キャリア」を手段にプログラムを展開しています。

紛争や暴力、人権侵害などにより、現在世界では1億840万人以上が故郷を追われています。私たちの暮らす日本にも、平和を求め逃れてきた難民と呼ばれる方々が暮らしております。現在、日本には政府に「難民」として認めてもらうための難民認定申請者を行っている「難民認定申請者」は、9299人※ほどおります。またアフガニスタンにおけるタリバン復権、ロシアによるウクライナ侵襲等、不安定な世界情勢の中で「留学」「特定活動（1年）」等、様々な在留資格にて日本に滞在する人も増加しています。WELgeeは彼らが経験や専門性を活かして、希望を持って日本で人生を再建するため「就労・キャリア」に特化したプログラムを運営しています。

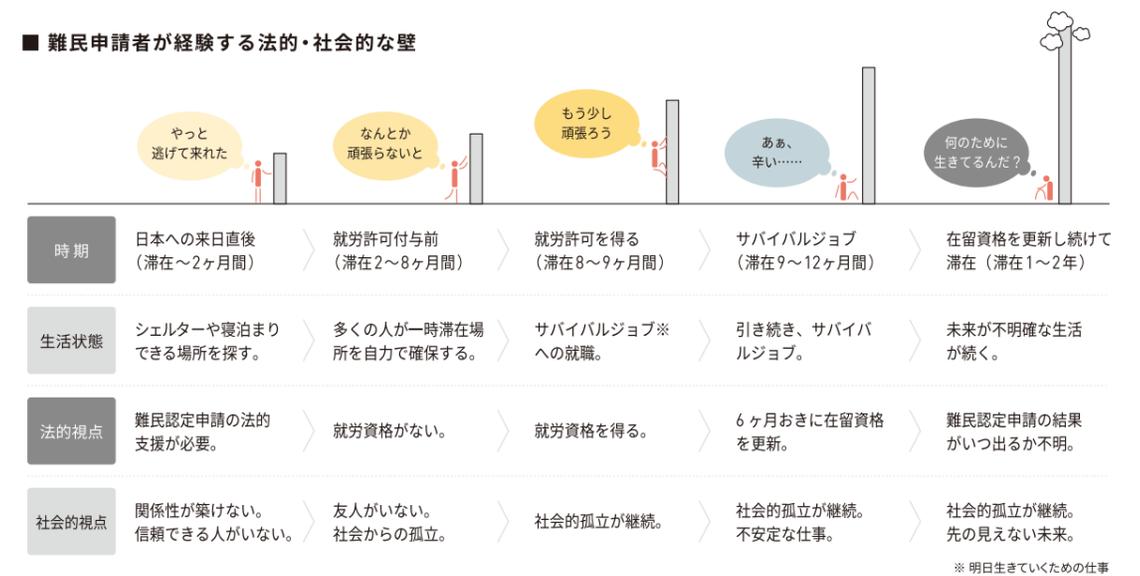
※法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）」（調査年月 2022年6月/最終閲覧 2023年7月1日）

■ 日本の難民認定申請数と認定数

（難民認定申請者と認定者の推移/出入国在留管理庁の統計より作成）



■ 難民申請者が経験する法的・社会的な壁



2022年度のハイライト

2022年の社会の変化

2022年は、当事者や日本社会から、WELgeeへの要請が飛躍的に高まる年になりました。急増するウクライナ・アフガニスタン避難民の日本での就労・キャリアを軸にした出口づくりのために、日本財団様や九州大学様、名古屋大学様との連携が始まりました。また、急増する当事者のニーズに応え、より多くのマッチングを生み出すために、外国人材の紹介を行う(株)商船三井様との業務連携もスタートしました。増え続ける社会や当事者からのニーズにしっかりと答えられる盤石な組織体制を築くために、新たな職員を採用し、組織のガバナンスや意思決定機能強化のための理事会の組成にも力を入れた1年になりました。

UNHCRの発表によると、第二次世界大戦以降過去最大の1億840万人が故郷を追われています。特に2022年2月からのウクライナ侵攻では1,400万人以上が国境を超えて避難をし、日本にも2,400人以上が避難をしました。入管庁のウクライナ避難民への支援窓口に約850件の企業の支援申し出がなされ、日本企業の難民への関心が高まりました。



組織基盤

有給職員数 **14名**

関わるプロボノ数 (個人・団体) **54名**

収益 **4,881万円**
成長率197%(対前年度)

受取寄付金 **2,360万円**
成長率951%(対前年度)

社会認知

メディア露出 **122件**

内訳
テレビ …… 17件
ウェブ記事 …… 69件
ラジオ …… 4件
新聞 …… 29件
雑誌 …… 5件

講演回数 **71回**

インターナショナルズ

● 育成事業

これまでのつながり **239名** (新規接点41名)

WELgee主催イベントへの参加人数 **71名**

メンターシッププログラムへの参加人数 **16名**

日本語教育プログラム参加者 **2名**

AI アノテーションプログラム参加者 **6名**

● 就労伴走事業

インターンシップ参加人数 **5名**

本採用数 **7名**

在留資格変更数 **2件**

インターナショナルズの変化

経験や専門性を活かせる仕事に就職することで

- ・家族の呼び寄せ
- ・職場や仕事の所属先
- ・不安定な在留資格の安定化
- ・日本での長期的な人生設計
- ・仕事を通じた自己効力感の向上
- ・キャリアアップ・スキルアップ

など、「難民」というステータスに縛られないグローバルな活躍が可能になります。

企業

● 法人施策

これまでのつながり **約8,500名**

法人向けイベント

開催数 **6回**

参加人数 **224名**

企業や日本社会の変化

企業が難民を人材として雇用することで、

- ・企業価値の向上
- ・社内のダイバーシティ&インクルージョン推進
- ・社員の意識改革
- ・海外への事業展開
- ・イノベーション創出

などが期待できます。難民が活躍する企業が増えることで、日本社会は異なる他者により寛容になり、誰もが「自らの境遇にかかわらず、未来を築ける社会」に近づきます。

pick up!

理事の選任&職員採用で組織規模2倍に!

団体が少しずつ成長し、扱う資金や関わるステークホルダーが拡大する中で、組織としての意思決定を迅速に行い対応していかなくてはならない場面が増えました。そこで、これまでの理事会体制を見直し、事業と事務局を担当している職員2名を内部理事として新たに加える形での共同経営体制に2022年9月より移行しました。経営サイクルのリズムを掴みながら、目前の業務をこなすだけではこぼれ落ちてしまう中長期的かつ重要な問いに向き合い続けられる組織でありたいと思います。

また、事業規模の拡大に合わせ、WELgee初の試みとなる公募での職員採用を行いました。

2023年3月から、フルタイム職員2名、キャリアコーディネーター3名が新たに加わり、多様化かつ拡大しているニーズに対応していくための体制強化をしています。



pick up!

過去最大のメディア露出数!

WELgeeが社会認知において大事にしているのは、「難民が企業とともに社会の課題を解決する存在」であるというメッセージを世の中に発信すること。

今年は前年度比3倍・過去最大の122件のメディア露出数となり、経済界における難民の活躍に注目が集まる年になりました。特に、6月20日の「世界難民の日」にあわせて「日本のIT業界も、国を逃れた人たちの人生の再建を応援する」という機運を作ることを目的に、7社のIT企業の協力の元、17名のウクライナ避難民に対して、デジタルスキルワークショップを開催しました。

避難民にとってキャリアの選択肢が広がったのはもちろん、メディアを通じ、企業とともに社会へとメッセージを伝え、世の中の機運を作っていく、一つの大きなきっかけとなりました。



pick up!

商船三井との業務連携開始!大手企業の巻き込み強化!

(株)商船三井様と人材紹介の協力体制を構築することになりました。少しずつ、多様な登録者が増えてきたJobCopassですが、同時に企業側の登録も増えない限りは、いいマッチングは生み出せません。そこで、難民人材を採用する企業の開拓に加わってくださることになった新しい心強いパートナーが(株)商船三井様です。

これまで、走り回りながら難民人材採用企業を、一社一社直接発掘してきたWELgeeにとって大きなステップ。

グループ会社の商船三井ロジスティクス(株)様でも難民人材が活躍しています。「人材の持ち味を活かし、自社のよりよいビジネス展開に共に挑戦する」そんな最高の出会いを、協働によって加速させていきたいと思っています。



pick up!

大学・財団との連携!

活動を開始した当初の相談者は、難民申請中の人が多数を占めていました。それに加え、ここ1年はウクライナ避難民やアフガニスタン避難民、またクーデターや紛争の勃発により卒業後に帰国困難になった留学生、難民認定や人道配慮による在留特別許可を受けた人など、多様な来日経緯と法的地位の方々から相談が来るようになりました。同時に難民を支援する団体や個人からも「支援し続ける限界」や「自立に向けた就労伴走」の相談が急増。それに伴い、WELgeeでは従来の直接相談の窓口以外にも、難民の日本への呼び寄せや来日後の生活支援を行う教育機関や身元保証人、市民団体らと連携し、「支援の出口づくり」としての就労伴走も開始しました。事業運営の複雑性や必要人員が増えましたが、日本における難民の来日から緊急支援、自立に向けた伴走という一連のプロセスの中で、WELgeeがこれまでのノウハウやネットワークを活かし担える役割を再認識する1年となりました。



■ 事業紹介

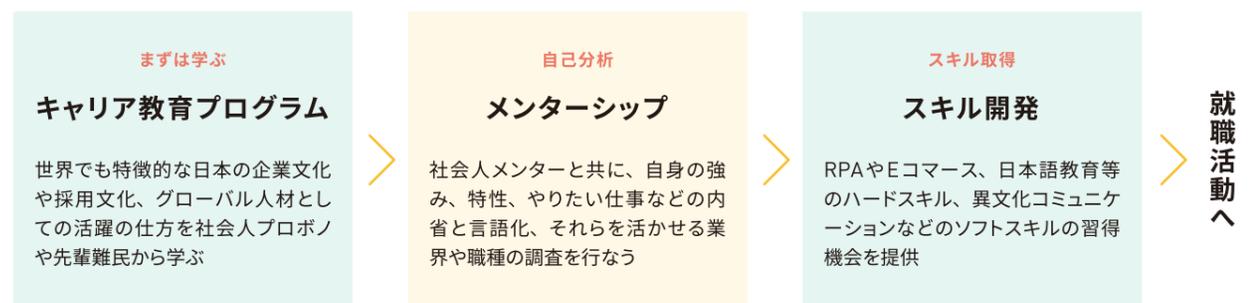
WELgeeは「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」の実現を目指し、難民とビジネスセクターが手を取り合い、社会にポジティブな変化を生み出す「Co-Creation（共創）」をモットーに事業展開をしています。

育成事業

就労伴走事業

キャリアやスキル形成

育成事業は、インターナショナルズ一人ひとりが、自身の経験や強み、志を最大限に活かした就職活動ができるように、個々に合わせた最適な育成機会を提供する事業です。今年度は、延べ101名に対して、「キャリア教育」「メンターシップ」「スキル開発」の3つの柱をもとに、日本で自身のキャリアを再形成することに向けたステップアップの機会を提供しました。



Pick up! キャリア教育プログラム

キャリア教育では、インターナショナルズに日本特有の企業文化、とりわけ採用に関するノウハウや、日本という異国で自分のキャリアを捉え直し、就職活動の一步を踏み出すための情報を提供します。WELgeeスタッフからのセミナーや、インターナショナルズ同士で日本での就職活動の経験を共有する機会、日本企業で働くプロボノの方と話す機会を提供するイベントを対面やオンラインで計9回実施し、延べ71名が参加しました。

● 事例

今年初の試みとして、デロイトトーマツコンサルティング合同会社様と連携し、インターナショナルズの就活支援ワークショップを開催しました。同社の皆様、インターナショナルズ、合わせて32名が参加。「初めて日本のビジネスパーソンと話せ、刺激になった」というインターナショナルズ、「インターナショナルズと初めて接し、優秀な方が多くいることを実感した」という参加者もいらっしゃいました。双方にとって学びの多い時間となりました。



● 「Co-Creative」育成事業の協働事例

会場提供



アノテーションプログラム



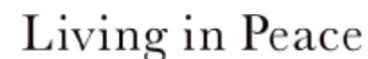
就活支援ワークショップ



日本語教育



日本語教育



日本語教育



Pick up! メンターシッププログラム

メンターシッププログラムは、プロボノとインターナショナルズが1対1のペアを組み、3ヶ月間かけて、インターナショナルズが就職活動を自走できる状態になるように伴走します。

具体的には、自己分析として、インターナショナルズの学業やキャリア経験の棚卸し、価値観の言語化、日本の人材市場における自身の強みや弱み、選択肢として興味のある業態などを洗い出す対話や、業界分析として日本の企業や業態、職種のリサーチにメンターと共に取り組みます。

インターナショナルズ自ら求人に応募してみて、その結果を踏まえながら進め方や改善策を試行錯誤していきます。

● 事例

仮説検証開始から2年目となった本年は、3期（バッチ）を運営し、計16名のインターナショナルズが参加しました。このうち、WELgeeが紹介した企業やプロボノメンターが見つけた企業、インターナショナルズ自身が見つけた企業において、7名が企業面談まで進み、1名のインターンシップと3名の就職が実現しました。またバッチ終了後も、友人として近況報告をしあったりと、関係性が続くペアも増えています。



Pick up! スキル開発プログラム

スキル開発プログラムでは、インターナショナルズが個々の強みや経験、キャリア志向に合った就労機会を得るために、重要なスキルを身につける機会を、他団体と連携して提供します。

特に重要な日本語力に関しては、前年に引き続き、他団体が提供する日本語研修にインターナショナルズの推薦を行いつつ、自団体に日本語学校と連携し、日本企業のホワイトカラー職種で就労するうえで必要な日本語力習得のための研修のパイロット版を運営しました。

● 事例

今年度はAI学習データの作成サービスを提供する（株）バオバブ様と連携し、日本国内に暮らすウクライナ避難民に対して、画像アノテーション技術ならびにアノテーションの作業管理、ビジネス基礎を学ぶ「Baobab Annotation team Leader Training Program」の提供を行いました。6名のウクライナ避難民の方が参加し、高品質なAI学習データを作成するアノテーション技術を学びました。

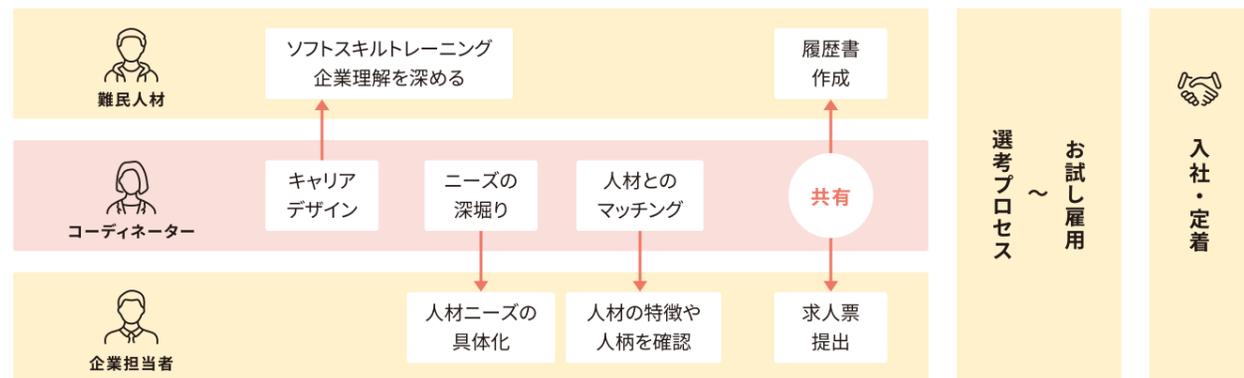


育成事業

就労伴走事業

専門性を活かせる仕事と就労ビザを取得

就労伴走事業では、インターナショナルズを日本企業の事業や組織にポジティブな変化をもたらす「人材（Talent）」として提案し、企業様でのポジションづくり、人材とポジションのコーディネーション、お試し雇用、定着まで一貫してサポートする「JobCopass」の運営を行っています。2022年度は54件のポジションづくりを行い、25人のインターナショナルズを33回企業様に推薦し、6名のインターンシップ（短期的就労やパートタイム就労）と7名の中長期的就労を視野に入れた雇用が実現しました。また2名名の在留資格が「技術・人文知識・国際業務」に変更されました。



Pick up! マッチング事例が約30件に。件数拡大に向けて新キャリアコーディネーター3名を採用。

2017年に始動したWELgeeの就労伴走事業。今年度のマッチング事例が、フルタイム就労・パートタイム・短期就労なども含めると約30件となり、ビザ切り替えの事例も7件となりました。長年の奮闘の末に就職したインターナショナルズや、そんな彼らとビジネスで価値創造しようと試行錯誤する企業様が、WELgeeと一緒にメディアを通じて事例発信をしてくださることも増えました。もはや「仮説」ではない本事業。急増するニーズやお問い合わせに対応すべく、今年度末には新たに3名のキャリアコーディネーターを迎え、コーディネーション件数の拡大に動き出しています。



Pick up! ウクライナ避難民への就労伴走開始と企業より高まる避難民採用の申し出

「ウクライナ避難民支援ばかりに関心が集まる状況をどう思いますか」と何度もご質問いただく1年間でした。さまざまな国から自力で日本に逃れ、政府や自治体からのサポートも皆無なまま、難民申請をして結果を待ち続けるインターナショナルズからも、ウクライナ避難民をとりまく政府の対応や自治体の支援体制の差について、愕然とする声を聞きました。ウクライナ情勢をきっかけに国を逃れざるを得なくなった人々に何かしたいと関心をもってくださった方々の想いを、より幅広いインターナショナルズにつなげられるように。今後もWELgeeでは、世界各地から逃れてきた人々とウクライナ避難民、同時並行で人生の再建に伴走します。



Pick up! 地場企業とアフガニスタン避難民の出会いをつくるイベントを九州・東海で開催

2021年に復権したタリバンの様々な人権侵害により、アフガニスタンから日本に逃れた難民は700名以上いるとされています。WELgeeでは地元の大学や企業様と連携して、大学に所属するアフガニスタン避難民と地場企業がカジュアルに交流し、両者のマッチングのきっかけをつくることを目的としたミートアップを、九州・東海にて開催しました。九州地域では、11名のアフガニスタン避難民と、総合商社や不動産事業者などの地場企業6社が参加。東海地域では、三星毛糸(株)様の協力のもと、地場企業21社と名古屋大学のアフガニスタン避難民6名が交流しました。



企業インタビュー 「キャリアを通じて人生を再建する」大切なパートナーの声 国籍や背景にとらわれず、よき仲間と働く— Nさんの採用・活躍事例



シティコンピュータ株式会社

BPO事業、派遣事業等、幅広く事業を展開している会社。「世界中の人々の雇用環境の創出を通じ、心物（しんぶつ）両面の豊かな社会の実現。」をミッションに、海外拠点も展開。日本国内においても外国人人材の採用を積極的に進めている。

WELgeeとの関わり

2022年5月に、コンゴ民主共和国出身のNさんを採用。その後メディア広報にも協力いただいている。また2023年世界難民の日には「Refugee Career Demo-Day」に協賛。現在、2人目の難民採用も検討中！

インターナショナルズの採用を考えたきっかけはなんですか？

難民だからという想いはあまりなく、国籍にかかわらず、シティコンピュータにあうと思った方と共に働きたい、と考えている中で、Nさんを紹介していただきました。

Nさんに初めてお会いしたときの第一印象はいかがでしたか？

Nさんの第一印象は「チャーミング」な方です。マスクにミッフィーちゃんがついていたことが印象的です。WELgeeより日本語がほとんどできない、と聞いていたのがありますが、「思ったより日本語が話せる!」という印象もありました。

Nさんのどういったスキルがシティコンピュータ(株)様にあうと感じたのでしょうか？

IT関連に力を入れていきたいと考えてる中で、彼のIT関係のキャリアや、大学での専攻が、弊社でも強みになるのではと思いました。

Nさんがシティコンピュータ(株)様に入社して1年。現在の活躍はいかがですか？

期待通り、ITスキルを存分に発揮しています。新事業のWebサイト立ち上げにもバックエンドで携わりました。日本語スキルも入社当初に比べ、ぐんと伸び、今は日本語でのやり取りも、ほとんど理解できているようです。成果をしっかりと残しており、弊社に欠かせない存在となっています。

「国を逃れてきた」という経緯をもつNさんがシティコンピュータ(株)様に入社したことで、職場に何か変化はありましたか？

「難民」という背景をもつ彼の入社で、遠い存在だった難民を、身近に感じることができるようになりました。難民が戦争だけではなく、政

府からの迫害などによっても起こるのだということや、日本の受け入れの実態を知れたことも、これからもっと海外の方を採用したいと考えている中で、いい経験になりました。

今年の4月には、シティコンピュータ(株)様のサポートもあり、在留資格が難民申請中の「特定活動」から「技術・人文知識・国際業務ビザ」に切り替わりました。

難民申請中であることから、より慎重さが求められる在留資格変更でしたが、WELgeeの行政書士のサポートのもと進めることができました。一緒に働く中でNさんのこれまでの経緯を詳しく知ることができたからこそ「在留資格取れた」と聞いたとき、むっちゃ涙が出そうになりました…会社の朝礼の場でも社員みんなでお祝いし、その後、お祝いの食事会もしました。自分のことのように嬉しかったです。

これから難民採用や外国人人材受け入れを検討する企業に対して、ひとこと！

日本は少子高齢化で、将来的に、海外の方を受け入れていかないと日本社会は回らないと思います。外国人人材を初めて受け入れる企業様には、ハードルが高く、一歩目を踏み出すのが大変だと思うのですが、難民の方の中にはハイスキルな方も多いため、その人を助けようという気持ちで雇うのではなく、自分たちの会社で活躍できる能力をもっているか、日本人を採用するのと同じような目線でまず面接に臨んでほしいです。語学の壁はあると思いますが、100%の日本語レベルでなくても、必要なことが一定伝われば仕事は間違いないです。上手いかわからない部分があったら改善すればいい、という気持ちで、まずは一歩踏み出してみてください。



8社にて新たに本採用、5社にてインターンシップが実施されました！（一部抜粋）



「ことば」を紡ぐ

難民という言葉の裏には、 意思を持った人間がいる

故郷を逃れることは、これまで築いてきた人間関係、キャリア、財産、社会的地位、家族や親戚、友人、恋人と過ごす日常をすべておいて、一から人生をやり直すこと。私たちは難民として逃れた日本で、彼らが再び未来を築くことができる社会「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」を目指して活動をしています。本コーナーではNさんが様々な困難を乗り越え未来を切り拓く姿を紹介します。



Nさんは最速で逃げるルートを作ろうと努め、なにか機会が見つければ、そこに逃げようと決めた。そこで思い浮かんだ国の一つが日本であった。

Nさんのお兄さんも、コンゴ民主共和国から日本へと逃げた難民である。Nさんが来日した3カ月前に日本に逃げてきていた。Nさんはお兄さんが「日本のピザがとれた」と言っていたことを思い出したのだ。実際、一番最初にとれたのが日本の観光ピザであった。奇跡的に確保できた、命の危機から安全な場所へと逃げる道。日本への希望をもち、ピザを握りしめ、来日した。

来日したNさんを待ち受けていたのは…

2019年10月来日。知人もおらず、情報もない、何も知らぬ土地。家を確保することもできなかった。日本での最初の1カ月半は、水道橋の公園で夜を過ごした。寒い日も雨の日も。毎日、公園の周りを歩いては、公園に戻り、同じ公園の同じ椅子に座り、夜を過ごす。自分と同じ状況の4人に来日後出会い、ともに公園で過ごしていた。日が昇ると、公園の公衆トイレにて、水を浴び、歯磨きをした。食事まともに取れなかった。座っていた石の椅子や、よくダンスの練習をしている若者がいたこと、雨が降ったらトイレの屋根のもとへ走ったこと、日本の10月の夜は温暖なコンゴ民主共和国に比べても寒かったこと、今でも公園に行けば、当時の様子を鮮明に思い出すことができる。

来日2週間経った頃に難民申請をした。支援団体から書類の書き方や入管への行き方を教わった。手元にスマホはなかったが、地図を手に入れ、一人で品川の入国管理局へと向かった。しかし、日本の交通システムに慣れていない来日ばかりの外国人にとって、スマホのない状況で、正しい交通機関に乗るのは至難の業であろう。Nさんも、品川には無事ついたものの、違う方向へと行くバスに乗ってしまった。幸い、同じバスにいた乗客が助けてくれた。支援団体は、日本は難民認定率が低いので、あまり希望を持たないように、ということだった。実際、来日5年経つ今でも申請結果待ちの状況である。次第に、難民認定の優先順位を下げ、なにか他の方法で日本で暮らし続ける方法を探さねばと思うようになった。

1カ月半のホームレス生活は、支援団体から家を借りることができるようになり幕を閉じた。ホームレス生活でかなり疲れていたNさん。ようやく家が見つかった安堵とそれまで蓄積していた疲労から、次の日には12時間以上睡眠したそう。

「とにかくストレスだった」と語る、 仕事探しの2年間

NさんとWELgeeが出会ったのは、2020年1月。彼が家を手に入れた直後の頃である。当時のWELgeeは定期的にWELgeeサロン（※2）を開催していた。NさんはWELgeeサロンに参加し、多くの日本人と話した。自分とは異なる文化、異なる環境で育ち、異なる価値観をもつ日本人を知るには、そして自分のことを知ってもらうには、「対話」が鍵だと感じていた。時には自国のことや今までの人生についてのプレゼンテーションをし、これまでを振り返るいい機会にもなった。しかし、WELgeeとの出会いから2カ月後。コロナパンデミックにより世界情勢が一変した。2020年6月には、就労許可を手に入れ、WELgeeと共に仕事探しを始めた。1回目の緊急事態宣言が解除された直後だった。会社は閉鎖、経済は不況。コロナ渦の中の仕事探しはいばらの道であった。

Nさんは豊かな経験とスキルを持つプログラマーだ。しかし、多くの会社において日本語のレベルを理由に不採用となった。日本語の習得は一朝一夜で叶うものではない。難民の多くは、縁もゆかりもなかった日本に逃げ、言葉の習得は来日後に始める。Nさんも同様に、日本語を学び始めたのは来日後、状況が落ち着いてからであり、WELgeeの支援のもと日本語教育を受けていたが、ビジネスレベルの日本語スキルを手に入れるのは至難の技であった。不安定な在留資格も壁であった。「特定活動（6カ月）」「難民申請中」「いつ難民申請が不認定になるかわからない」という状態は、企業にとってNさんを雇う上での大きな懸念要素であった。50〜60社程度申し込んだものの、大概は書類選考で落とされた。3回の面接の後、断られたことも、1カ月間お試しで働いたものの上手くいかなかったこともあった。見知らぬ国に逃げ、パートナーと離れ離れ。仕事が見つからず家族を支えることさえできない。この状況は家族思いであり、夫として責任感を強く持つNさんには耐え難いものであった。WELgeeはそんなNさんに寄り添い、仕事が見つかるまでの2年間伴走しつづけた。キャリアコーディネーターの武居を中心に、彼のメンタルも気にかけてながら、履歴書をブラッシュアップして、共に企業へのトライを重ねた。そうして2年後の2022年2月、出会ったのがシティコンピュータ（株）様（※3）だ。担当の岡本さん、齊藤さんとのとてもカジュアルな面談で採用が決まった。4月に契約、5月からプログラマーとして勤務を開始した。

難民を超えパイオニア人材に。Nさんの今と未来。

Nさんにとってシティコンピュータ（株）様に就職出来たことは「奇跡」のような出来事であった。

Nさんの紹介

コンゴ民主共和国出身。愛妻家のエンジニア/プログラマー。WELgeeによる3年間の伴走を経て、現在、シティコンピュータ（株）様でITプログラマーとして、Webサイト構築等に携わっている。

2019年10月	来日、ホームレス生活を1カ月体験
2019年11月	シェルターで暮らし始める
2020年6月	仕事探しスタート
2022年5月	シティコンピュータ株式会社 就職
2023年4月	技術・人文知識・国際業務(技人国)の在留資格へ切り替え

仕事を得られたことで、家族を支えられるようになった。また、働くことを通じて、日本での第二の人生、日本社会の一員としての一歩を踏み出した実感を得られた。現在プログラマーとして、これまで築いてきた知見を最大限に活かし、会社に貢献しているNさん。多様な文化のチームの中で、日々新しいことを学び、さまざまなことにトライしている。同社新事業のwebサイト立ち上げにも携わり、同社のブログにて「欠かせない存在」として紹介されるほどの活躍ぶりだ。同僚にも慕われており、会社のメンバーからは「頼れる仕事仲間」でありながら、「なんでも話せる友人」でもある、と言われている。実際、よく外食に行くなどプライベートでも家族ぐるみで交流があり、年末年始には岡本さん（採用を担当したNさんの上司）のご自宅に訪問、おせちやお雑煮など日本式のお正月を過ごしたそう。

まだまだ大変なこともある。日本語は特にその一つだが、日本語で行われる会議に日々出席し、少しずつ理解できるようになってきた。最近では出来る限り発言するようにも心がけている。日本人が会議で話すネイティブスピードの日本語はスピードが速く、難しい言葉も多く飛び交うが、日々諦めずに学びを重ねている最中だ。好きな日本語の単語を聞いたところ、「山本、という苗字が好き。可愛い音に聞こえるから！」と教えてくれた。2023年4月にはWELgeeの顧問行政書士のもと、会社がスポンサーとなり、「技術・人文知識・国際業務（技人国）」の在留資格への切り替えに成功した。これにより難民認定の結果によらずに安定した在留資格を保つことができる。また在留資格の切り替えにより、日本への家族の呼び寄せができるようになった。12月にはパートナーを日本に呼び、日本で共に暮らそうと考えている。今でも毎日電話しているほど、パートナーを愛するNさんは、今、5年ぶりの再会を心待ちにしている。

Check! Nさんの携わった web サイト

※1. マイクロファイナンスとは？
貧困層や低所得層を対象に貧困緩和を目的として行われる小規模金融のこと。貧困層の融資や貯蓄へのアクセスを開き、貧困からの脱却を支援していく役割がある。
参照：JICAレポート「貧困とマイクロファイナンス」（2023.07.19閲覧）

※2 WELgeeサロン
WELgeeが2016〜2020年度に開催していた交流イベント。異なる価値観をもつ人々が双方向的な会話を行うことを大切にし、「難民」という言葉の先のユニークな個性と出会うことを目的に実施、計30回以上開催され、1000名以上が参加した。

※3 シティコンピュータ（株）様
「世界中の人々の雇用環境の創出を通じ、心物（しんぶつ）両面の豊かな社会の実現。」をミッションに、BPO事業・派遣事業・海外人材派遣紹介事業などを展開する会社。2022年にNさんを採用した。会社インタビューはp8をご確認ください！

■ 職員が振り返る 2022 年

STORY

01 めまぐるしい社会情勢と急増するニーズに対応するための組織基盤強化

事業統括
山本 菜奈

あらゆる角度から難民をエンパワーする仕掛けづくりに奔走した創業フェーズと、「就労」を軸とした難民の人生の再建・社会活躍・法的地位の安定化の仮説検証フェーズを経て迎えた 2022 年。アフガニスタンやウクライナでの人道危機を受けて、さらにニーズが広がるなか、より幅広いステークホルダーと連携して着実に事業を展開するフェーズに差し掛かっていることを実感した 1 年でした。

経営体制や組織基盤を強化する動きにも注力する年となりました。理事会体制の整備や新職員の採用も行い、担当領域ごとの迅速な意思決定と、より慎重で中長期的な視点が必要な意思決定を分け、効果的な意思決定ができるような体制に徐々に移行しはじめています。



STORY

02 マッチングとその先にある活躍の姿

キャリアコーディネーター
坂下 裕基

約 30 件のマッチングを達成し、彼らのビジネスパーソンとしての活躍を伺う声が日々聞こえてくるようになりました。彼らが入社してから、その先の活躍まで、企業と共に試行錯誤を重ねていくことは、任務でもあり、喜びの源でもあります。

一方、全ての試行錯誤が成功につながるわけではありません。成功や失敗を重ねる中で、マッチング数を伸ばすだけでなく、その先にどのような価値を提供できるかを考えはじめました。マッチングと在留資格の変更を通じてより安定した生活を営むことが可能になるといった仮説検証の成果が積み重なった故の問いになります。今後はさらにその先へと目を向け、新たな価値を創出するために私たちが何をできるのか、日々試行錯誤しています。



STORY

03 ウクライナ侵攻がもたらした「避難民採用」という新しいマーケットの出現

キャリアコーディネーター
武居 裕介

ウクライナ侵攻が WELgee に大きな影響を与えた年でした。

今まで、向かい風の中で新たな価値をマーケットに浸透させることに多くの労力を注いできましたが、ウクライナ侵攻をきっかけに「避難民」という言葉そのものがマーケットに認知・理解され、採用へのニーズが急速に生まれ始めました。WELgee にとって、向かい風が急に追い風に変化するという大きなターニングポイントだったと思います。

最近では、お問い合わせが企業から届くようになり、WELgee も拡大傾向。ビジネスが成長していくフェーズに入り、そして、ソーシャル色が強かった WELgee がビジネスセクターに大きく足を踏み入れ、「難民＝人材」という価値観が、ビジネスマーケットに浸透してきたと実感しております。



STORY

04 大躍進の年。WELgee の次の挑戦のステージとは。

エンゲージメント部 統括
林 将平

昨年度と比較し、メディア露出数が 3 倍、寄付金の調達額が 10 倍、企業申込数が 6 倍に。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞や、Z 世代の注目企業のノミネートなど、これまで光が当たらなかった「難民の人材活躍」に経済界の大きな注目が集まった年となりました。

また 3 月からは、5 名の職員が参画をし、組織規模が 2 倍になりました。

組織、事業、社会認知などの様々な領域で躍進の年となった一方で、世界で広がり続ける紛争や迫害、また入管法を巡る様々な議論の中で、日本における難民の受け入れのハードルの高さや、当事者のニーズに答えきれないもどかしさを感じる瞬間も多々ありました。次年度は、民間セクターや大学、日本各所の地域のアクターなど、多様なセクターとの協働を通じて、難民の方々の人生再建の輪をより拡大してゆくとともに、経済界において「難民が人材として活躍できる」というメッセージをより広く・深く届けられる年にしたいと強く感じています。



STORY

05 Preparedness の重要性

リソース部門 統括
渡辺 早希

2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻とウクライナ避難民への政府、世論の関心の高まりを受け、日本社会でも難民受け入れに関する議論がなされたことで、WELgee の活動にもスポットライトが当たる瞬間が多くありました。

同時に、有事が発生した時に、迅速に判断し、最善の対応ができるように、平時からの関係性資本の構築と意思決定体制の整備の重要性を再認識した年でもありました。

ウクライナ避難民向けデジタルスキルワークショップの開催やアフガニスタン避難民向けの地方企業とのミートアップイベントの開催は、これまでの関係性を軸に、短期間で様々なステークホルダーと目的を共有しながら一つの場を共創する経験となりました。また、海外からの入国制限の解除により、新規の難民の方々と接点が増え、より多くの方にプログラムや就労機会を提供するための運営体制の見直しが必要になりました。ビジョンは変わらずとも、情勢が目まぐるしく変化する中で、届いた声にしっかりと応えていくためには、ステークホルダーやインタナショナルズとの日常のコミュニケーションが重要であり、やりたいことを“その時”に実現するための準備が重要なだと改めて実感しました。



※全ての成果・エピソードは 2022 年 4 月 1 日 - 2023 年 3 月 31 日の間に生じたものとなります。

■ 協働事例のご紹介

「逃れて来ざるを得なかった新しい国で、ゼロから人生を再建する」ことは簡単な道のりではありません。WELgeeではインターナショナルズたちが、それぞれの専門性や個性を活かして企業で活躍できるように、キャリア育成と就労プログラムに注力していますが、自団体だけでは取り組めないことも多くあります。共に未来を描く様々な団体・法人・企業・教育機関・財団の皆さんの存在があるからこそ、新しいチャレンジを続けることができている。全てをご紹介はできないのですが、いくつかピックアップしてゆきます。

CASE 01 BLP-Network様 × WELgee

ビジネス法務のスキルや知識を活かした社会貢献活動への支援を行うBLP-Network様から、3名の弁護士さんをご参画くださり、個人情報保護やガバナンスの観点の運営体制強化に向けて動き出しました。



まずはWELgeeが扱う情報の中で、最もセンシティブなインターナショナルズの個人情報の運用の厳格化に着手しています。スピード感を大事にしつつも、関わる人が安心し、信頼できる組織を目指し、体制強化を進めてまいります。

CASE 02 (特非)ETIC.様 / ユース・ビジネス・インターナショナル(YBI)様 × WELgee

英国ロンドンを拠点にする起業家支援団体のグローバルネットワーク「ユース・ビジネス・インターナショナル(YBI)」が主催する国際会議が、2022年10月18日~20日、オランダ・ハーグにて開催されました。(特非)ETIC.様の推薦により、WELgeeが「グローバル・ユース・アントレプレナー・サミット」ファイナリストに選出されました! 社会課題解決に向けた活動に関わる若手たちと、オランダ現地の難民支援組織とも繋がることができました。



CASE 03 グロービス経営大学院様 × WELgee

グロービス経営大学院にて、難民の背景がある人材が対象の英語MBAプログラム奨学金が始動しました! 学長・堀義人さんの「とことん学び、いい仲間と出会い、ビジネスセクターで活躍して欲しい」の声から、職員の皆さんが心を込めて奨学金制度の新設に動いてくださいました。さっそくWELgee・グロービス経営大学院様双方の厳正な選考を経て、日本企業で活躍する東アフリカ出身の人材が奨学生第一号となることと決定。現在学びの過程にあります。同社においてもリーダーシップを発揮することが期待されるポジションで奮闘しており、着実に学びを現場で実践しながら、より活躍機会を広げる大きなきっかけなることを願っております。



CASE 04 REEP財団様 × WELgee

休眠預金活用事業「キャッシュフオーワーク2021」では、コロナ禍で経済的な影響を受けたインターナショナルズに対して、メンターシップやスキル研修、インターンシップの機会を提供し、中長期的な就労機会に繋がる前段階の伴走強化を試みました。本取り組みの中で、日本で修士課程を修了した2名の難民人材の専門性やスキルが評価され、紛争を研究する調査事業のインターンシップが実現しました。教授からもパフォーマンスが評価され、助成事業終了後も直接雇用で調査事業を手伝っています。難民人材を中長期的な就労機会へと繋げるためには、企業と難民、双方への根気強い取り組みが重要であることが改めて明らかになりました。助成期間中に経営体制強化のための本質的なサポートを受けられたことで組織基盤強化ができたことも成果の一つです。



CASE 05 日本財団様 × WELgee

ウクライナ避難民の専門性を活かした安定的な就労機会確保のため、日本財団様と事業連携を開始しました。日本財団様の調査によると、ウクライナ避難民のうち、3人に1人が日本への定住志向がある一方で、6割が就労しておらず、また就労している人たちも8割がパートタイムの仕事に留まっています。そこで日本財団様と、避難民の社会包摂に携わる中で、ビジョンや経験、課題意識を共有しあい、何度もディスカッションを重ねて連携の糸口を模索しました。WELgeeは現在、日本財団様との連携のもと、避難民の中長期的な日本企業での就労を通じた、本人の人生の再建と社会活躍、日本企業の成長、ひいては日本の多文化共生社会の実現を目指した事業のモデル化を目指し、仮説検証を進めています。



CASE 06 グロービス経営大学院様のグロービス・ソーシャルアクションクラブ様 × WELgee

グロービス経営大学院の「グロービス・ソーシャルアクションクラブ」が主催する「SACプロボノチャレンジ」と連携して、育成事業のメンターシッププログラムのオペレーション整理と運営体制の強化に、3ヶ月間取り組みました。プログラムが始まってからの1年間で蓄積したナレッジや経験、参加した社会人プロボノやインターナショナルズのフィードバックをもとに、メンター向けハンドブック、メンターの伴走体験記アーカイブなどを作成いただきました。現在実際にハンドブック等を活用し、メンターシッププログラムを実施しています。



● 加盟団体 (5団体 / 2023年3月時)



アフガニスタン退避者受け入れ
コンソーシアム

● 2022年度を受賞履歴



■ コアメンバーであるスタッフを紹介します

<p>フルタイム 職員</p> <p>代表理事 ファウンダー</p> <p>渡部 カンコロンゴ 清花</p>	<p>フルタイム 職員</p> <p>事業統括 理事</p> <p>山本 菜奈</p>	<p>フルタイム 職員</p> <p>育成事業部 プロジェクトコーディネーター</p> <p>成田 茉央</p>
<p>フルタイム 職員</p> <p>リソース部門統括 理事</p> <p>渡辺 早希</p>	<p>フルタイム 職員</p> <p>エンゲージメント推進部 統括</p> <p>林 将平</p>	<p>フルタイム 職員</p> <p>エンゲージメント推進部 メンバー</p> <p>加藤 冬華</p>
<p>パートタイム 職員</p> <p>就労伴走事業部 キャリアコーディネーター</p> <p>坂下 裕基</p>	<p>パートタイム 職員</p> <p>就労伴走事業部 キャリアコーディネーター</p> <p>武居 裕介</p>	<p>パートタイム 職員</p> <p>就労伴走事業部 キャリアコーディネーター</p> <p>金城 遥</p>
<p>パートタイム 職員</p> <p>就労伴走事業部 キャリアコーディネーター</p> <p>圓山 佐登子</p>	<p>パートタイム 職員</p> <p>就労伴走事業部 キャリアコーディネーター</p> <p>寺阪 ゆう子</p>	<p>メンバー</p> <p>JobCopass 販促チーム リーダー</p> <p>星加 まどか</p>
<p>メンバー</p> <p>ファンドレイジング コンサルタント</p> <p>水溜 智士</p>	<p>メンバー</p> <p>事務局サポート</p> <p>奥江 英樹</p>	<p>外部理事</p> <p>株式会社 エス・エム・エス</p> <p>安齋 耀太</p>
<p>監事</p> <p>株式会社グロービス</p> <p>東樹 敏明</p>	<p>監事</p> <p>株式会社グロービス</p> <p>井上 智映子</p>	<p>顧問行政書士</p> <p>行政書士 明るい法律事務所</p> <p>長岡 由剛</p>
<p>リーガルアドバイザー</p> <p>藤の花法律事務所 BLP-Network</p> <p>荒谷 淑恵</p>	<p>リーガルアドバイザー</p> <p>高橋修平法律事務所 BLP-Network</p> <p>藤田 直介</p>	<p>上記メンバーの他、 57名のプロボノ 6名のインターンが Team WELgeeとして、 日々難民のキャリア再建に 尽力しています!</p> 

Co-creative Advisor

<p>一般社団法人 Green innovation 代表理事</p> <p>菅原 聡</p>	<p>ヤマハ発動機株式会社 企画・財務本部 経営改革推進アドバイザー</p> <p>白石 章二</p>
<p>NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者・代表理事</p> <p>小沼 大地</p>	<p>セントラル石油瓦斯株式会社 代表取締役社長</p> <p>太田 晃</p>

Comment:新メンバー

育成事業部
プロジェクトコーディネーター

成田 茉央

祖国からも守られなかった人たちがいることをWELgeeの活動で知りました。大学卒業前に出会ったWELgeeに心が惹かれたまま、5年の時を経て、舞い戻ってきました。WELgeeに入職して、様々なインターナショナルズを知れば知るほど、心が動きます。彼らにカラフルな社会が訪れるために、インターナショナルズも日本社会も変えていけるように尽力します!

Comment:新メンバー

エンゲージメント推進部
メンバー

加藤 冬華

"We had difficulty in our country, and we just have another difficulty here in Japan"私の難民として背景を持つ友人が残したこの言葉の衝撃、そしてそんな状況でも夢を語る彼らの姿に「閉ざされた日本の社会を変えないと!」と掻き立てられ、気が付いたらWELgeeの職員になっていました。自分ができるインパクトを最大限残せるよう、最速で走ります!

Comment:新メンバー

就労伴走事業
キャリアコーディネーター

寺阪 ゆう子

多様な人材が活躍できる社会を作ることが日本の発展に不可欠と日々感じる中、難民を人材と捉え日本企業とマッチングするWin-Winの発想による活動に共感しWELgeeの門をたたきました。困難を乗り越え日本にたどり着いた難民の方々が1人でも多く、その能力を発揮し活躍できる職場を見つけて幸せになることを願い尽力します!

Comment:新メンバー

就労伴走事業
キャリアコーディネーター

金城 遥

社会のなかに様々な多様性の仕掛けをつくるという自分の目的を見つけたときに、WELgeeの取り組みを知り、まさに私がやりたかったことだと直感し、参画しました。個性豊かインターナショナルズの就労を通して、もっと開かれた社会をみんなで作っていくために、難民人材一人ひとりと丁寧に向き合い、就労に伴走していきます。

Comment:新メンバー

就労伴走事業
キャリアコーディネーター

圓山 佐登子

さまざまな理由で母国で困難に直面し日本にやってきたインターナショナルズが、就労を通じて新たな生活基盤を築き、日本社会の一員として活躍できるお手伝いがしたいと思い、WELgeeの活動に参加しました。彼らと一緒に悩み、考えながら未来に向かって前向きに就労活動に取り組んでいきます!

Comment:プロボノ

井本 康夫

私自身、海外で困ったことに直面した際、沢山の方々に助けていただきました。そこで私でも何か出来ることはないかと考えていた中、WELgeeの挑戦を知り、プロボノ参加を決め、インターナショナルズへのメンターシップとJobCopassの拡大支援に従事しています。また、日本の組織でもより多様性を必要とする現状を実感し、WELgeeを通じてその解決活動に少しでも関わる機会もいただき、感謝しています。

Comment:インターン

育成事業

大御 悠瑠花

WELgeeでは、育成事業に携わっています。実際に彼らと出会う中で、1人ひとりの個性や経験そのものを肌で感じ、私たちは同じ時代と地球に生きるひとりであると思いました。WELgeeを通して彼らと未来を共に築き、社会へ新たな価値を創造できることを願っています。分断よりも、共生を育む1人でありたいです。

プロボノ募集中!

WELgeeでは、本業で培った経験を活かし社会課題解決に取り組むプロボノ(※)が57名在籍しています。多国籍の難民当事者と関わる国際的な環境かつ多種多様なキャリアを積んできたメンバーとの協働を通じて、自身のスキルアップだけでなく、本業に活かせる様々な学びを得ることができます。

※プロボノ…「社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動を行う人々」のこと



■ たくさんの方々に支えていただきました

2022年は3つの助成金への採択と、15の団体・42名の個人より単発のご寄付を、14つの団体・361名の個人より継続的な寄付を賜りました。

生きづらさや精神的な負荷を負うインターナショナルズへと丁寧な伴走を続けることができたのは、助成金や寄付をいただきました皆さまのおかげです。一部となりますが、サポーターの方々をご紹介します。

法人寄付



株式会社Indigo Blue、一般財団法人PEACE DAY、株式会社散歩社、一般財団法人世界聖典普及協会、株式会社GEAR、一般社団法人みつめる旅、株式会社サザンダイア、株式会社きょとん、株式会社アクト・ノード、株式会社五島列島なかむらただし社、株式会社SKYAH、Yokohama Christ Church、一般社団法人ヨコグシ、株式会社エムダブリュー、株式会社BonZuttner、Living Together Co.、株式会社グロウスカンパニー+、株式会社プレート、株式会社DIVE INTO CODE、合同会社LOCA、クラシエホールディングス株式会社、株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント・行政書士明るい総合法律事務所

個人からの単発寄付

新村 和太様、三木谷 晴子様、坂根 宏治様 等

2022年世界難民の日 ウクライナ避難民へのデジタルワークショップ 協賛



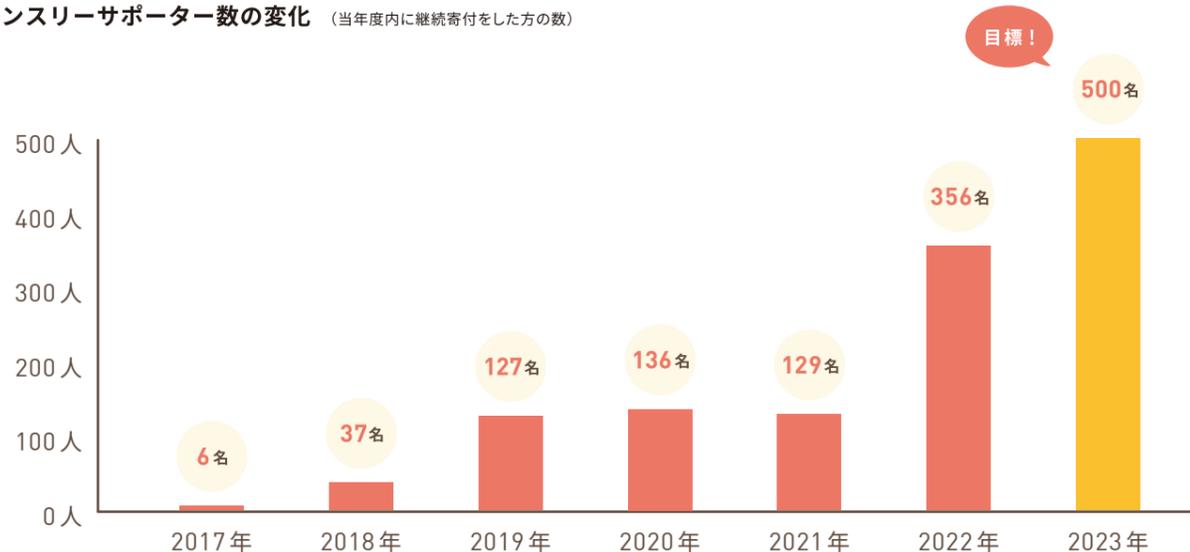
採択 / 運用されたプログラム・助成金等



■ WELgee ファミリーとは？

「自らの境遇に関わらず、ともに未来を築ける社会」の実現に向け、インターナショナルズのキャリアを通じた人生再建のため、彼らが直面する壁を乗り越え、本来の能力を発揮し、自立と自己実現をするまでの道のりを継続的な寄付によって支える、家族のような存在です。

● マンスリーサポーター数の変化 (当年度内に継続寄付をした方の数)



● 長年ご寄付をいただいている皆さま

上鶴 亜紀子様、松村 岳土様、白石 章二様、沼田 康資様、藤見 智美様、大星 光世様、桐ヶ谷 昌康様、花田 春香様、大野 達也様、松田 祥伸様、山本 幸司様、鈴木 慶様

上鶴 亜紀子様のコメント

フルタイムの仕事を3年前に辞めて、今は友人の仕事を手伝いつつ、日本語教師などのボランティアをしながら、プールに行ったり公園で本を読んだり、のんびり暮らしています。WELgeeは5年以上前からサポートしており、最近は、日本語サロンをきっかけに、育成事業のプロボノとしても貢献できるようになりました。年齢も出身地もさまざまな皆さんと一緒に、面白いことをたくさん始められそうで、とっても楽しみです。

上鶴さんとは2017年、WELgeeがまだ任意団体であったころ、夏は外より暑くなるような設備環境であった、緊急シェルター中目黒ハウスに、冷房を買いなさい！と寄付をくださった、という感慨深い思い出があります…！(WELgee代表 渡部)



島田 瑞穂様のコメント

北海道出身、栃木県内で内科医をしています。学生時代には留学生と一緒に多国籍料理のお店の運営に関わっていました。難民問題にも関わらねばと思っていましたが、なにもできていなかったときに、代表の新聞記事を読んで、寄付することに決めました。今では週末に開催される日本語サロンにも参加しています。日本に住む生活者同士として関わりを持てるのがいいと感じています。WELgeeの「伴走する」、という概念に惹かれています。共に前を向くことは、強い絆になる。私も引き続きWELgeeファミリーとして難民の未来を応援します！



Pick up! マンスリーキャンペーンについて

2022年5月12日～6月20日の約1ヶ月間、日本に逃れたウクライナ避難民・アフガン避難民の日本での人生の再建に伴走するために、マンスリーサポーターを200名募集するキャンペーンを実施しました。緊急支援の後の「中長期的な“人生の再建”」が重要であると知っていただくことを目的とした本キャンペーンは、多くの皆様にシェア等で応援いただき、結果122名の方々にWELgeeファミリーの仲間入りをしていただきました。

WELgeeファミリーになって難民の若者たちに「未来の投資」をしませんか？

紛争・差別・迫害などから逃れ日本にやってくる「難民」と呼ばれる人たちがいます。希望をかけて逃れてきた先の日本でも追い込まれ「自分は役に立たない人間だ」と可能性を閉ざしている人たちがいるのが現状です。実は彼らは将来的な故郷の担い手たちなのです。そんな若者たちの直面する壁を崩し、未来に投資するマンスリーサポーターになりませんか？

1日30円～



2022年度 活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

単位：円

科目		金額		
I 経常収益	1 受取会費	正会員受取会費	80,000	
		賛助会員受取会費	6,959,397	
	2 受取寄附金		23,608,827	
	3 受取助成金等	受取民間助成金	4,414,000	
		受取公的補助金	1,000,000	
4 事業収益		職業紹介事業	7,241,023	
		育成事業	1,746,605	
		啓発事業	3,433,110	
	5 その他収益	受取利息	62	
		雑収入	327,136	
経常収益 計			48,810,160	
II 経常費用	1 事業費	(1) 人件費	役員報酬	2,841,600
			給料手当	8,836,970
			Internationals 給与	1,208,464
			法定福利費	1,308,147
			福利厚生費	305,140
		(1) 人件費 集計		14,500,321
		(2) その他経費	業務委託費	1,990,860
			謝金	70,500
			印刷製本費	218,438
			会議費	388,023
			交際費	38,296
			旅費交通費	1,358,631
			通信運搬費	866,647
			消耗品費	2,130,958
			水道光熱費	7,502
		賃借料	14,400	
		減価償却費	44,342	
		諸会費	40,000	
		租税公課	34,700	
		研修費	47,000	
		新聞図書費	44,671	
		支払報酬料	541,139	
		支払手数料	57,128	
	(2) その他経費 集計		7,893,235	
	1 計		22,393,556	
2 管理費	(1) 人件費	給料手当	2,573,000	
		法定福利費	523,261	
		(1) 人件費 計	3,096,261	
		(2) その他経費	業務委託費	1,023,137
			システム利用料	219,828
		印刷製本費	200	
		会議費	16,286	
		旅費交通費	16,343	
		通信運搬費	38,150	
		消耗品費	31,907	
		諸会費	18,000	
		租税公課	3,900	
		研修費	5,650	
		広告宣伝費	539,000	
		支払手数料	65,855	
	雑費	8,987		
	(2) その他経費 集計		1,987,243	
	2 計		5,083,504	
経常費用 計			27,477,060	
当期経常増減額			21,333,100	
III 経常外収益				
経常外収益 計			0	
IV 経常外費用				
経常外費用 計			0	
税引前当期経常増減額			21,333,100	

受取賛助会員会費
2022年5月に実施した「日本におけるウクライナ・アフガニスタン避難民の人生再建に伴走するためのマンスリーサポーター募集キャンペーン」の際に、新たにサポーターになってくださった122名の方を含め、多くの方にご支援頂いています。(詳しくはp19-20)

受取寄附金
多くの個人・法人の皆さまからのご寄付をいただきました。特に今年度は法人からの大口の寄付が増加し、受取寄附金額の総計が前年度のおよそ10倍になりました。

事業収益のところ
コロナの収束も相まって、これまで長らく伴走してきたインターナショナルズが就労機会に結びついたことで、企業と人材をお繋ぎした際のマッチングフィーによる収益6件分を職業紹介事業による収益として計上しています。
※WELgeeでは、有料職業紹介業の許可を取得しています。

Internationals 給与
Cash for work 2021のスキームにて、WELgeeで雇用契約を締結し、各就労先での職業訓練機会に参加したインターナショナルズへの給与の支払いが含まれています。プログラム終了後には、そのまま職業訓練先との直接の雇用契約に切り替わり、現在も就労を継続しているケースもあります。

印刷製本費、会議費、旅費交通費
2022年度はコロナの収束により、オフサイト会議への参加や就労面談の対面での実施、地方での交流イベントの開催等が多くあり、会場費や移動のための交通費が増加しました。また、対面の場でお渡しすることが多い、活動報告書等の団体紹介資料の印刷やイベント開催時のパネル印刷費用が印刷製本費には含まれています。

支払報酬料
顧問弁護士や顧問行政書士への顧問料が含まれています。

科目		金額	
法人税、住民税及び事業税			70,000
	当期正味財産増減額		21,263,100
	前期繰越正味財産額		25,259,917
	次期繰越正味財産額		46,523,017



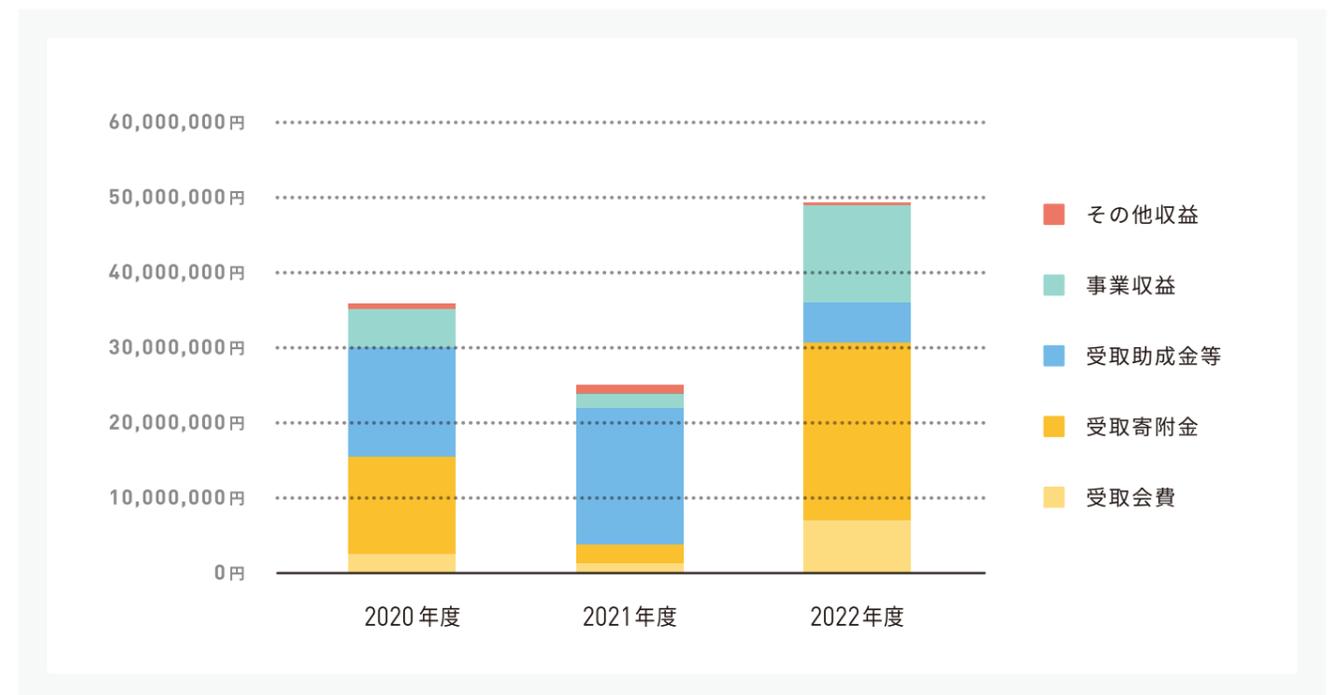
2022年度 貸借対照表

令和5年3月31日現在

単位：円

科目		金額		
資産の部	1 流動資産	現金預金	51,428,264	
		仕掛品	907,620	
		貯蔵品	50,000	
		前払費用	3,367	
		未収収益	2,744,625	
	1 流動資産 合計		55,133,876	
2 固定資産	工具器具備品		133,025	
	減価償却累計額		▲44,342	
2 固定資産 合計		88,683		
資産 合計			55,222,559	
負債及び正味財産の部	1 流動負債	未払金	2,554,502	
		未払法人税等	70,000	
		預り金	75,040	
	1 流動負債 合計		2,699,542	
	2 固定負債	長期借入金		6,000,000
		2 固定負債 合計		6,000,000
負債 合計			8,699,542	
正味財産	前期繰越正味財産額		25,259,917	
	当期正味財産増減額		21,263,100	
	正味財産 合計		46,523,017	
負債及び正味財産 合計			55,222,559	

経常収益内枠 3期比較



WELgeeの「今まで」と「これから」

2017年度

就労伴走事業の着想期

2017年には山本(事業総括)、長岡行政書士、安齋(外部理事)が参画し、就労伴走事業を着想。在留資格制度や外国人の就業に関する調査や、企業への営業をはじめました。地域でボランティアワークをしながら、多様な背景を持つ人と「共に生きる」を考える実体験型の「難民ワークキャンプ」も開始しました。

11月には入国後まもなく路上生活をしてきた方が、まず来れる場所を作るべく、緊急シェルターをオープン。小さなシェルターでしたが、約1年で13名が滞在しました。



2019年度

事業内容の選択と集中

4名のインテリナショナルズが就職し、在留資格「技術・人文知識・国際業務」への初めての切り替えも成功。設立以来実施してきたシェアハウスの事業をクローズし、「キャリア」に特化した事業へと、舵を切りました。

難民人材コーディネーションサービス「JobCopass」をローンチしました。武居(キャリアコーディネーター)参画。インテリナショナルズの就労機会の拡大のため、企業研修を拡大し、企業・法人との関係構築に力を入れ始めました。



2021年度

避難民の増加とWELgeeの拡大

アフガニスタンでのタリバン政権復権やロシア軍のウクライナ侵攻など世界各国で紛争や軍事衝突が続き、多くの市民が故郷からの避難を余儀なくされました。日本へ逃れる難民も増加。WELgeeへの問い合わせも多岐にわたるようになりました。スキルや経験、パッションを活かした職種での就職を目指し、個々に合わせた育成機会を提供する「育成事業」や、より多くの企業人や経営者に対し難民採用に興味を持ってもらうための施策を企画・実施する「法人施策チーム」が発足。関わるプロボノが50名を超えたことも大きな変化でした。



2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

創業フェーズ 国を逃れてきた若者と共に、あらゆる角度から難民をエンパワーする仕掛けづくりに奔走しました

仮説検証期 「難民申請中の方が日本で専門性や経験を活かした仕事に就くことによって、在留資格変更ができ、社会的にも法的にも安定が得られるのでは」という仮説を、企業やインテリナショナルズと共に検証しました

拡大期 様々なアクターを巻き込みながら、企業とインテリナショナルズのマッチングの促進を通じ、さらなる「キャリアを通じた人生再建」の事例の拡大を図っています

2016年度

任意団体WELgee設立

渡部(代表理事)を中心に、学生メンバー3人で設立。難民の方に出会うために、深夜のマクドナルドなどの探索や、難民の人たちに日本語を教えるボランティアに参加することから始めました。日本に希望を求めてやってきた難民の、「日本社会とつながるきっかけ作り」を大切に、事業を展開。

富士登山プロジェクトを実施。難民の方が日本人の家庭にホームステイをする「難民ホームステイ」や参加者が語りあう場「WELgeeサロン」も開始しました。



2018年度

「NPO法人WELgee」に

林(エンゲージメント推進部)、坂下(キャリアコーディネーター)が参画。就労伴走事業のサービス化に向け、特定非営利活動法人の法人格を取得しました。プログラミングスキルを身につける機会を提供するIT人材育成「Tech Up 事業」を開始。難民の方が中長期的に日本の地域に暮らせるためのシェアハウスを千葉にオープン。年齢や国籍を超え、多様な背景を持つ150名の方々が訪れました。インテリナショナルズと共にボランティアやイベントに参加し、「難民」でなく、一個人としての地域で暮らせる方法を模索しました。



2020年度

コロナ禍での事業継続

渡辺(リソース部門)が参画。コロナの影響を大きく受けた1年でした。インテリナショナルズからも多くのSOSが届くように。リモートでの伴走体制を構築し、全国のインテリナショナルズが参加できるようにしていきました。組織の大きなトランジションも経験した1年になりました。コロナの影響で事業収入が大幅に減少し、キャッシュアウト目前に。社内コミュニケーションにも課題が生じ、組織存続の危機も迎えながらも、個人の大口寄付や助成金、システムコーチングに支えられ、「技術・人文知識・国際業務」への変更2件目を達成しました。



2022年度

社会のニーズを受けての組織新体制へ移行

世界の情勢悪化の中で来日する難民もさらに増加。日本在住期間が長くなるにつれ、就労へのニーズも増加し、安定した生活への道筋がさらに求められる1年となりました。前年度と比較し、メディア露出数が3倍以上、寄付が10倍、企業申込数が6倍に。躍進の1年となりました。フルタイム2名・キャリアコーディネーター3名が参画。次のフェーズに向かうための経営体制見直しでは、山本・渡辺が新しく理事に就任。団体規模の拡大と同時に、組織基盤を整えることで、さらに着実に事業展開を可能にする体制に移行しました。



WELgeeの描く世界

2016年から始まったWELgeeは、難民の方々とともに暮らしながら、一人ひとりとの対話を通じて、彼らが置かれている社会的構造や彼らが最も困難と感じている根本的な課題を明らかにしようと試みました。

その中で、

①日本に逃れてきた難民の方々が、日本に長期的に滞在するためには数%の難民認定を受けるしか選択肢がなく、さらに認定を待ち続ける間も非常に不安定な法的地位で滞在している

②最低限の生活を送ることはできるけれども、母国で培ってきた経験や職歴、母国への想いなどを発揮する機会を得ることができない

この2つの課題が、彼らが日本で人生を再建するのに大きな壁となっているということが明らかになりました。2つの課題を同時に解決するために、WELgeeは「専門性を活かした就労を通じて、在留資格変更する」という仮説を立て、行政書士・企業関係者とともに検証。結果的に、2019年10月に、当時は実質不可能とされていた難民認定申請者の在留資格変更を成功させました。

「キャリアを通じて、人生を再建する」という仮説が実証され、上場企業・中小企業・ベンチャー企業での採用が広がって行く中で、今、さらに当事者の方々の就労のニーズは高まっています。2020年のコロナ禍では、不安定な雇用契約で働いていた難民の方々が真っ先に雇用の安定性を失う立場となりました。さらに、2021年のアフガニスタンでのタリバン復権、2022年のウクライナ危機などで、日本に避難する難民が増加。難民申請者ととどまらず、避難民や後発的な難民など「難民状態にある方々」に対しても、就労機会を提供開始をしました。さらに、日本における就職活動を加速するための育成事業も開始しました。WELgeeでは、増え続ける当事者のニーズに対して事業・組織体制を強化し、2025年までに100の企業で難民人材が活躍している状態を実現することを目標としています。企業や経済界、財団、教育機関などの様々なセクターとの協働を通じて、「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」を実現します。

難民人材が企業に本採用となった件数(年毎) ※18~23年度の分に関して勤開始日を起点として換算しています。

